

北ア入門 花と雪溪 展望も期待 白馬岳

- 実施日 2012年8月2日(木)～4日(土)
 天候 快晴
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、山崎富美恵、鈴木恵美子、中村友子、石原勝正 計5名
 費用 高速バス4,600円、JR7,560円(新宿起算)、バス540円、梅池パノラマウェイ1,720円、タクシー700円、宿泊費18,000円 合計33,120円
 タイム 8/2 白馬町BT(12:44~12:50バス) 梅池BS(13:20~13:40パノラマウェイ)自然園駅(14:00)梅池ヒュッテ(14:30)チェックイン後自然園散策(14:50~16:10) 泊
 8/3 梅池ヒュッテ(5:50)朝食(6:07・6:25)天狗原(7:28・7:35)乗鞍岳(9:05・9:15)白馬大池(9:55・10:10)休憩(11:05・11:13)小蓮華岳(12:45・13:10)昼食)三国境(13:53・14:03)白馬岳(15:00・15:30)白馬山荘(15:40) 泊
 8/4 白馬山荘(6:45)大雪溪上(8:50・9:00)大雪溪終了点(9:40・9:58)白馬尻小屋(10:15・10:32)猿倉(11:35・11:40)みみずくの湯(12:10・12:55)白馬駅(13:15・14:38)あずさ26号)

8/2 暑い白馬駅から梅池行のバスに揺られ、梅池高原へ。ゴンドラ2本乗継いで自然園まで標高を稼ぐ。多少ひんやり感じつつ宿の梅池ヒュッテへ移動。

内部はほぼ旅館のヒュッテにチェックイン後自然園の散策に出る。3月の雪原散策とは打って変り、緑の湿原を縫って敷かれた木道を左右の花々を楽しみつつ歩くことになる。当然ながら湿地を好む花が多いが花好き友の会?といった趣で多様な花と緑、更に展望も楽しんで明日の歩きに備えた初日は終わった。

8/3 長い歩きの始まりは5時50分梅池山荘の脇から登山道に入る。シラビソの樹林の道を登る、20分程歩き宿支給の朝

食を摂る。頭上の尾根を目指し急登を進み前方が開けると気持ちの良い天狗原に飛び出る。残雪模様を見せる乗鞍岳のに向かうのだが



更に急登が続く。そのような気配である。道は再び樹林帯になり岩ゴロの急登でかなり体力を消耗する登りとなる。やっと傾斜が緩くなり眺望も高山らしくなるとケルンの立つ乗鞍岳に着く。

これから進む山稜がゆるやかなうねりを見せている、道は右(北西)に白馬大池に向かって下りになる。この辺りから行き違いのパーティが多くなりしばしば譲り合戦となる。青空に池面の碧さとさざ波が美しい池のほつりを辿って大池山荘に到着、大勢の登山者に混ざって我々もしばし休憩とした。



大池からは小蓮華岳に向かってまたひたすら登る道になるが、道々に迎えてくれる花々が苦しさを慰めてくれるのは夏山とこの晴天ならではである。

時折右側(南)から吹き上がる風に心地



良い涼しさを感じながら進む、南面の急峻の山肌の眼下に昨日の自然園の木道が望めた。また、北方山稜はたおやかで美しい峰

々の連なりを見せている。上へ上へと稜線を進み、岩塊の重なった小蓮華岳に辿り着く、山頂は崩落のおそれから立入禁止になっている。

やや遅い昼食を摂ってから、気持ちの良い稜線歩きを再開した。



北側の高山植物帯には踏み入れないもののコマクサの群落がすごい！このルートこの時期にはまさに花ルートと言っても良い

くらいの代表的な高山の花を愛でながら、また雄大に広がる山並を眺めながら歩ける道でもある。しかし、悪天時には逃げ場がない稜線でもある。

前方に伸びる大きな尾根と合流点の三国境に到着、さあ目指す白馬岳も大分近づいた。レモンとオレンジで息を吹き返して残り180mの高さの克服にかかる。目標地点が見えるのは励みになり、時折ガスがかかりずっと涼しさに包まれたり、傍らの花に紛らわせたりしながら歩きも覚えのある頂が近づいてくる。

15時、嬉々とした大勢の登山者でにぎわう白馬岳山頂に着いた。

午後のこの時間にも拘わらず青空のもとで360度の眺望が開けている、う～



ん何度目かの訪問でもやはり山頂に立つ気持ちはすがすがしいものだ。やはり一番存在感を誇示しているのはピラミダルな姿を天に突き上げる劔岳だろう。この姿を初めて仰ぎあこがれたのは何年前だっただろう。

のんびりと山頂の時間を過ごしてから、10分ほど下り宿舎の巨大山小屋の白馬山荘にチェックインとなった。

夕食までのひと時、缶ビールでささやかに登頂祝いで過ごし、夕食後も穏やかに晴れた鉢ヶ岳の陰に沈む夕日見物までも楽しむことができた。

長い行程となった今日も暮れ、明日の日の出を楽しみに就寝。

8/4 4時起床、4時半に日の出見物のために再び山頂へ。

既に出発のパーティに交り山頂で朝日を待つ、穏やかに明けつつある



北アの峰々の空も赤みを帯びて、やや雲にじんだ太陽が顔を出し、今日も快晴の1日が始まった。

小屋へ戻り、朝

食を済ませて下山を開始したのは6時45分だった。

岩礫の道をゆっくりと下って行く、やはり花の山、何度も足を止めては写真撮影などになってしまう。黄、紫、橙、白、などなど辺りの山肌一面がお花畑となっている。

大雪溪が近づくにつれて行き違いの登山者の数も増えてくる。小雪溪は既に夏道ルートになっていたが、道型はまだ不明瞭部分やガレ道となっている部分もあり下りは特に注意すべき個所であった。

大雪溪に降り立つ手前、足場の良くない場所でツアー登山(CT)の一行と行き違いになり、登りも下りも渋滞になってしまった。年間で最も入山者が多い8月最初の週末に最も混雑が予想される山にツアーを企画するかねえ???

大雪溪に降り立ってアイゼンを装着して下り始めるが、くされ雪状態でアイゼンの効きがあまり良くない。思いの他急に思える雪溪を下る、雪溪上は上端から下端まで登りの列が連なっている。今夜はこの全員が山頂2軒の小屋に収まるのかと思うと…



雪溪下端下の白馬尻小屋で一休みした後、途中からはすっかり下界の暑さに戻った林道を経由して猿倉へ下山した。

タクシーで白馬駅近くのみみずくの湯で汗を流し、そばと生ビールでシンプルに下山祝いをして、新宿行き特急に乗車、快晴に恵まれ北アの花と展望の歩きは終了。初の或いは複数回だったメンバーの皆さん、山の素晴らしさ、そして快晴をもららしてくれた全てに感謝感謝。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・石原 勝正)